

# 命名の妙 久露滝

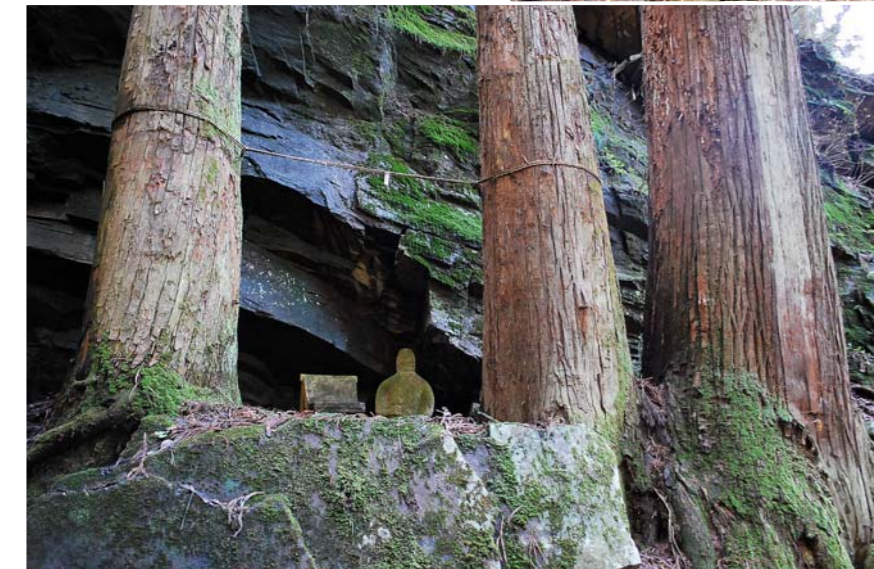


羽尾区からの冠着山頂への登山道入り口



冠着山腹から湧き出した水は久露滝を經由して御麓集落の上方のため池に流れ込む。奥はスイッチバックの構造が残るJR篠ノ井線

杉の大木の間鎮座する祠と神像



さらしなの里のシンボル冠着山（別名・姨捨山）への一つの登山道沿いに「くろたき」と地元の人々が呼ぶ滝（写真上）があります。落差約10m。肌のきれいな杉の大木を両脇に従え、大変神々しい滝です。羽尾区（旧更級村）を構成する一つの集落、御麓（シリーズ174号参照）の上方にその登山道の入り口があります。冠着山頂の冠着神社への参道の入り口でもあり、鳥居を抜けて20分ほどの所です。

「くろたき」には「黒滝」「久露滝」という漢字があてられ、現在は「久露滝」が一般的ですが、もともとは「黒滝」が先ではないかと思えます。合併前の千曲市域を構成していた戸倉町誌の「自然編」によると、滝の岩は安山岩。黒みがかつていたことから、「黒滝」の名前が付けられた可能性があります。

「くろたき」と口で唱えている分には、「黒滝」で違和感はありませんが、文書に書きつけるときに、ある人がある時点で「久露」の字をあてると、より滝の存在と価値がパワーアップすることに気がついたのだと思えます。「露が久しい」という言葉は、水が途切れないうようなイメージを強調します。滝の下流はさらしなの里の水田地帯です。昔は日照りが大変心配だったので、「久露」には雨乞いの願いも込められます。滝の水はしぶきになるので「露」にぴったりです。

佐良志奈神社の社標和歌「月のみか露霜しぐれ雪までにさらしさらしせるさらしなの里」（シリーズ3、173号参照）ことを思いだしました。この和歌は「さらしな」という地名の白色イメージを徹底して遊んだものですが、和歌の中で「露」という言葉が白さのイメージとの関連で登場しています。しぶきの色は白に見えます。その意味で「久露滝」の漢字はさらしなの里にぴったりです。